

## 僕らの生活を守る税

入善町立入善西中学校 3年 草切 琢吾

僕には、兄と姉がいる。僕にとってとても大切な存在で、必ず一番最初に食べたい物ややりたい事を聞いてくれる。僕は、末っ子だから優しくしてくれるのかなと思っていた。

僕は幼い頃、家族旅行で行った東京ディズニーランドで兄や姉と歩き方が違うことに両親が気付いたようだ。心配になり、病院受診することになった。僕の体は、タコのように柔らかく、足首、手首など、体の関節ごとに普通の人がそり返すと痛みを訴える範囲まで医師に曲げられてもニコニコしていた。医師は、首をかしげ「レントゲン写真をとりましょう」と言った。すると、踵骨の位置が通常じゃないところにあることが分かった。医師から「この骨の位置だと普通は歩けないんだけどね」と言われ、つま先立ちやスキップなど、医師から指示された運動をこなし。医師から運動機能には問題がないが、手術と装具のどちらかの治療方法を選択するように両親に告げられた。母からは、小さい体に手術は負担であるから装具を使用する治療を選択したことを聞かされた。幼い頃は足底板、今はインソールを使用して足の負担を軽減させている。幼い頃から病院へ通院し、成長するたびに装具の変更が必要になる。治療費は、相当な金額になったのではないかと思った。僕は現在、中学三年生になった。僕が、これからも成長していくためには相当なお金がかかるんだろうと思う。母にこっそりと「小さい時の治療費、装具のお金、すごいかかったんでしょ」ときいた。母はニコニコしながら「ゼロ円よ。国に守られているからね」と答えてきた。ゼロ円とは、どういうことなのか。現在も風邪、野球でのケガなどで病院に受診する時、両親は「ピンクの紙持っていかんなん」と言う。ピンクの紙、イコール「子ども医療費受給資格証」のことである。この紙を病院受診の時に提示すると治療費、薬剤費が免除される。つまり、ゼロ円のシステムである。自分達で治療費を支払っていない分、どこから支払われているのか。僕は、子どもの医療について調べてみた。僕たちが生まれてから受けている乳幼児健康診断や予防接種、毎年春にある学校での健康診断は、無料のものがほとんどである。医療費の全てを助成してもらっている。税金でまかなわれていることを知った。今、僕が何の支障もなく大好きな野球を続けられることができるのも幼い頃に医療費負担を感じず、足の治療を受けることができたからである。僕達の生活は、税金と深く結びついていて消費税が上がっても、自分達の生活に還元してもらっている。僕は、身をもって税金のありがたさ、大切さを学んだ。将来、自分達の子供も同じように国に守ってもらえるように、税金制度を知り、しっかり税を納めていきたいと強く思った。